

優秀賞

公務員と税金の関わり

我孫子市立湖北中学校 第二学年 安東 ひまり

保育士の給料は低い。保育士になりたい私にとってその事実はひっかかるものだった。世の中では保育士の平均年収は約三百四十二万円とされている。全職種の平均年収が約四百九十一万円であることを考えると約百五十万円近くの差があるため、保育士の給料は安いと言わざるを得ないだろう。そのようなことを知った時、保育士の給料はどこからでているのか疑問に思った。「保育士の給料の多くは税金から支払われる補助金である。」インターネットで調べた時、そのような回答が目に残った。今までの私は、教育や予防接種や治療費などの医料関係、年金や介護などの高齢者のための税金としか知らなかった。そのため、物を買う時に支払わなくてはいけない八パーセントの消費税は高いのではないかと感じていた。しかし、その税金は内閣総理大臣を始め、都道府県の議会議員や、市役所の職員、警察官を始めとする公務員の給料としても払われていた。そのため、税金が高くなったとしても世の中を平和に保つため、たくさんの人が生きるためには必要なものと理解することができた。しかし、警察官を始めとする公務員の給料は高いのに対して、保育士の給料は低い。同じ税金で給料が払われているのにも関わらず、差があることからこの事実は不公平だと言わざるを得ないのではないかと私は感じた。しかし、その事実は、近年問題とされている「少子化問題」につながっているのではないかと考えることができた。少子化である今、世の中では子供を大切にすることが世を安定させるというためのキーワードともなるだろう。そのため、子供の安全のため、成長のために、お金を使うことは必要不可欠だと思う。しかし、その子供を守るために働く保育士の給料が低いという事実を考えると保育士に与える国としての税金が少ないのではないかと感じる。子供のための税金が多いという事実は、悪いことではなく正しいといえるが、職員の方は給料が低いという事実から、保育士に向ける税金を増やす必要があるのではないかと私は考える。個人経営の方たちで、「税金をもらうことができるだけ良い。」という考え方の人もいるであろう。しかし、税金をもらえらという事実よりも、働いた仕事の質に対しての税金の量が大切でないかと私は感じた。公務員という名前がつく仕事で働くためには様々な資格をとる必要があり、国家資格という言葉が公務員にはつきものである。しかし、職業に就くことが大変な仕事に対し、給料が低いと働き手が減ってしまうと思われる。そのためにも、公務員への税金の量に対しても力を入れるべきだと考えた。

税金には様々な使い方があり、使われ方によっては、困る人たちがおり、問題点がたくさん見えてくる。そのため、税金についてたくさんの人に知ってもらいたい。皆が笑顔で過ごせる日をつくる。全員が関わる税金で。